

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成23年3月17日 (2011.3.17)

【公開番号】特開2009-191942(P2009-191942A)

【公開日】平成21年8月27日 (2009.8.27)

【年通号数】公開・登録公報2009-034

【出願番号】特願2008-33200(P2008-33200)

【国際特許分類】

*F 1 6 C 33/62 (2006.01)*

*F 1 6 C 33/64 (2006.01)*

*F 1 6 C 33/32 (2006.01)*

*F 1 6 C 33/34 (2006.01)*

*C 2 2 C 38/00 (2006.01)*

*C 2 2 C 38/38 (2006.01)*

*C 2 1 D 1/06 (2006.01)*

*C 2 1 D 9/36 (2006.01)*

*C 2 1 D 9/40 (2006.01)*

【F I】

F 1 6 C 33/62

F 1 6 C 33/64

F 1 6 C 33/32

F 1 6 C 33/34

C 2 2 C 38/00 3 0 1 Z

C 2 2 C 38/38

C 2 1 D 1/06 A

C 2 1 D 9/36

C 2 1 D 9/40 A

C 2 1 D 9/40 Z

【手続補正書】

【提出日】平成23年1月27日 (2011.1.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 5】

上記各転動体の硬さを上述の様に規制する理由は、これら各転動体の耐圧痕性を向上させる為である。即ち、耐圧痕性向上の為に最も有効な材料因子は、硬さである。圧痕の種類としては、転がり接触部に異物を噛み込む事によって生じる異物圧痕と、過大荷重が作用した場合に転動体が軌道輪に食い込み、軌道輪が転動体を押し潰す事によって生じるブリネル圧痕とがある。異物圧痕の場合には、表面近傍の硬さのみを大きくすれば、これを抑える事ができるのに対して、ブリネル圧痕の場合には、表面だけでなく芯部まで硬さを高くする事が重要になる。